

あきはくはつものがたり

令和6年9月1日
発行：秋葉区自治協議会
編集：広報部会

秋葉区自治協議会



ホームページで
情報発信中！

『発』 秋葉区から発信する数々のイベント

『初』 秋葉区から始まった数々の誇れるもの

『抜』 抜きん出ている素晴らしいもの



中高生・若者の居場所が
オープンしました！



2024年7月25日、新津地域交流センターに新しく中高生・若者の居場所がオープンしました。

これは、昨年度、新津中央コミュニティ協議会にて開催された未来ビジョン会議で、地元学生から出されたアクションプランを実現させたものです。

この日開催されたオープニングセレモニーでは、関係者や地域住民が数多く詰めかけました。中高生・若者の居場所実行委員長はじめ、新津中央コミュニティ協議会会長、来賓として秋葉区長があいさつをおこないました。

実行委員長である新津高校生代表は、マイクを手に、「たくさんの大人たちがどう運営するかを考えてくれた。みんなで使って改善しながらよりよい居場所にしていきたい」と力強く語りました。

続くテープカットでは、新津高校生2名、新津第一中学校生3名がリボンにハサミを入れ、新たな旅立ちを祝いました。その後、全員で「あなたに出会えたこの町で」を合唱し、華を添えました。

この居場所スペースは、新津第一中学校の生徒会アンケートの結果、第二の家のように身近な場所になってほしいとの思いから、「SECOND HOUSE」と名付けられました。また、正面玄関のそばに部室が設けられ、ミーティングルームとして使用される予定です。カフェで食事をしたり、電車の待ち時間に利用したり、学習スペースやイベント開催など、多面的な活用が期待されます。

こうして誕生した、中高生・若者の居場所の実行委員会には、新津高校の生徒のほかに新津第一中学校の生徒も加わります。施設の管理運営委員会と連携し、当面は、隔月のペースで実行委員会が開かれ、今後の運営や活用について話し合われます。この先、区内の他の地区でも、こども・若者の居場所づくりが取り組まれると予想されますが、さきがけのモデルとして注目されることでしょう。

<中島 純 記>



【プロフィール】
ジチキョー2期目
趣味は野球と映画と歴史の話

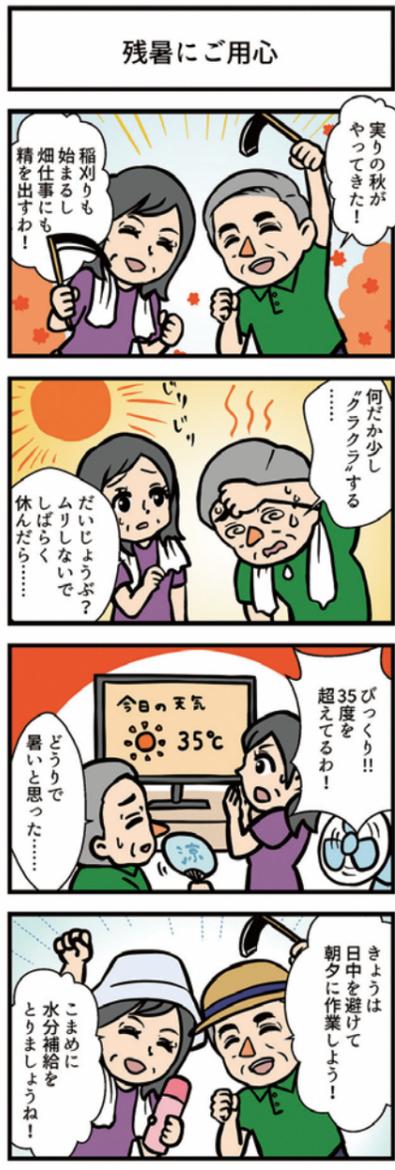
作者：necoco

新潟まんが事業協同組合「ガタまん」に所属。イラストやマンガのご依頼をいただいて制作しています。海洋生物や動植物が好きです。



「アキハスムプロジェクト」のお揃いのポロシャツを着用して、秋葉区のPRをしながらか活動しています。

このロゴマークは『楽しく秋葉区に住む』ということで、家が微笑んでいるように「AKIHA」の文字をタテに並べたものです。



編集後記



今年の元旦に発生した能登半島地震から9ヶ月になりました。地震で被害に逢われ未だ復興・復旧途中の方々には一日も早い復興・復旧を心よりお祈りいたします。

本誌、あきはくはつものがたりでは5月に新潟市区自治協議会全体委員研修会の中で行われた防災研修の各テーマ別分科会での様子を取り上げました。為になる内容もあったでしょうか。新潟市でも地震で液状化や建物の被害を受けた所が多くありました。この災害を教訓にして各家庭や個人で、災害発生時の避難行動について事前に考え、何らかの形で備えておく事が大切と感じました。

<広報部会委員 今井 康弘 記>

募集しています！

かわら版や自治協議会活動についてのご意見、ホームページに掲載してほしい情報を募集しています。住所・氏名・連絡先をご記入の上、下記自治協議会事務局宛てに郵送、FAX、またはメールでお送り下さい。

〒956-8601 (住所記載不要)
秋葉区役所 地域総務課 企画担当
FAX / 0250-22-0228
メール / chiikisomu.a@city.niigata.lg.jp

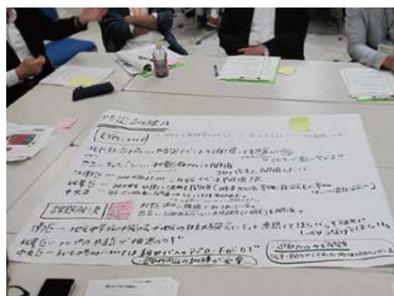


令和6年
新潟市区自治協議会
全体委員研修会に
参加をしました！

まずはじめに、代表区より「防災」に関する取り組み事例の発表が行われ、秋葉区からは自治協議会第2部会部会長の青木委員より事例発表が行われました。秋葉区からは、第2部会の事業である「防災講演会」(令和5年度開催)、そして令和4年度に作成した小中学生向けの防災手帳の2つを取り組み事例として発表しました。

- <令和5年度防災講演会 開催内容>
- ・第1部 「土砂災害の現状と自然災害に対する自治会長の心構え」
 - ・第2部 「歌いながら防災活動を盛り上げよう」

- 【プログラム】
1. 代表区による事例発表
 2. 分科会で各テーマごとに意見交換
 3. 全体共有



分科会での意見交換

令和6年5月10日(金)に、新潟市区自治協議会全体委員研修会が東区プラザにて行われました。令和6年元旦に発生した能登半島地震を経て、災害に対する日ごろの備えや発災時の迅速な判断と行動の重要性を改めて認識したことを踏まえ、「防災」をテーマに「市民と市との協働のかなめ」である区自治協議会が、地域の代表として区民の防災意識の更なる向上を目的に実施されました。



代表区の一区として、秋葉区の実例発表が行われました

区	発表事例 (第9期自治協議会提案事業)	発表者
秋葉区	防災講演会「土砂災害の現状と自然災害に対する自治会長の心構え」	青木 貞義
西区	自然災害に備える！西区版アワータイムラインの作成	古俣 和博
西蒲区	西蒲区防災啓発事業 (防災講演会・防災演劇)	吉田 金豊

事例発表を聞いた委員のみならず、小中学生向けの防災手帳について良い取り組みであるとコメントをいただき、秋葉区の「防災」への取り組みを全区に周知することのできた有意義な時間となりました。元日の地震以降、防災の重要性が高まっている中で、市民と行政を繋ぐ「かなめ」として自治協議会としてどのような役割を果たすことができるか、を考える機会になりました。

自治協議会からのお知らせ

秋葉区自治協議会では本会議、各部会を傍聴することができます。定員10名。直接会場へどうぞ。

【今後の会議開催日程】

- 本会議 9月24日(火) 13:30~
- 秋葉区役所6階 601・602会議室

※秋葉区自治協議会の開催日、会場は当月の「あきは区役所だより」をご確認ください。

ラジオ版「あきはくはつものがたり」

毎月第2水曜日 12:00~
(再放送 第2水曜日と同じ週の土曜日9:00~)

『クリック!秋葉区』内「自治協通信」

秋葉区自治協議会本会議の協議内容をお知らせしています。
毎月第2金曜日 10:07~

ラジオチャット
エフエムにいつ
76.1MHz

分科会テーマ 『防災訓練』

意識変革



分科会の防災訓練グループに参加し、そこで今年起こった地震の時の避難所開設した実際の話や不安になって避難所に駆け込んだ人達を冷静に行動させる難しさや、訓練と現実の違いを実感した話に、自分を含めた参加した方々はどれほど自分ごととして捉えたでしょう。災害は忘れた頃にやってくる。訓練の他にも日頃やっておく事はあります。家庭での災害対策グッズの準備や点検、家族との話し合いが重要です。

我が家は過去の新潟地震で地割れが玄関前に起き、逃げる時は後ろへ逃げろと言われてます。こう言った教訓は語り継がれ必ず行動に変化を起こします。まずは自分からです。 <山崎 美絵 記>

分科会テーマ 『避難行動』

災害時「避難行動」を話し合いました



分科会メンバー 11人は初めて会う人が多く、司会者を決めて自己紹介から意見交換会が開始しました。まず元旦に発生した能登半島地震で避難行動をどう取りましたか、という質問に対して、特に避難行動しなかった人が半数でした。多くの人が戸を開けた、外に出た、近くの避難所を確認した等の行動に留まっていた。

西区の委員からは、家のすぐ近くで液状化が発生し避難には注意が必要だったという意見が上がりました。他にはペットの避難、あるいは災害の状況により行動が変わるという意見が出て、時間の関係から意見はまとまりませんでした。元旦の地震が発生した後ですぐに「非常持ち出しセット」を備えたという人もいました。 <今井 康弘 記>

分科会テーマ 『地域共助』

「地域共助」分科会に参加をして



地域住民としてだんだん年を重ねていく中、地域の方とともに助け合って生きていく、つまり地域共助が大事なかなと思ひ、この部会に参加をしました。

分科会では避難行動要支援者との関係づくり、地域や個人で行う備え、津波ハザードマップの活用など3つの柱を軸にして意見交換が行われました。

その中で、地域住民の方とは何気ない挨拶や声掛けで人と人とのつながりが生まれ、このことが一番大事だとの声が多く上がりました。また、子どもへの防災知識を習得してもらおうと防災演劇、防災絵本の読み聞かせ、紙芝居、子どもの防災手帳、防災ゲームなどが報告され、将来を担う子どもたちになるべく早めに防災の知識を持ってもらうことは大事な事ではないか、と考えました。 <横山 邦子 記>

分科会テーマ 『復旧時の取組』

たすけあいの輪



私のグループは「復旧時の取組」について話し合いました。主に、災害による地域課題と住民のニーズ把握と、市民と行政をつなぐ「かなめ」としての役割の2つをテーマにグループワークを行いました。

グループの中には震災発生から新潟市西区で避難所運営に携わった方や、液状化現象で困っている方の保険対応を行っている方のお話を聞かせてもらいました。

私からは1月5日に石川県珠洲市へ救援物資を届けた時のことや、継続した救援活動を通して感じていることやお伝えしました。非常時の時だけでなく、常時から地域住民同士の「たすけあいの輪」が広がるよう自治協議会としても防災意識を高めていきたいと思ひます。 <村上 勝行 記>

分科会テーマ 『避難所運営』

実際に運営して見えてきたこと



今回の研修会は参加された自治協委員の中で、避難所運営委員や防災士の方々がおり、1月にあった能登半島地震において避難所を開設した体験談を聴くことができました。

津波警報が解除されず、避難に来た方達を帰すことができず困った、要支援者の情報が地域に共有されていない、避難所運営委員が機能的に動けなかったため訓練や研修が必要、地域と自治体の協力が不可欠等など。実際に動くことで様々な問題点が浮き彫りになりました。

今回の研修での意見を踏まえて市と自治協で検討する必要があると実感しました。 <甲田 寛子 記>